

## 復興街路の近代的設備

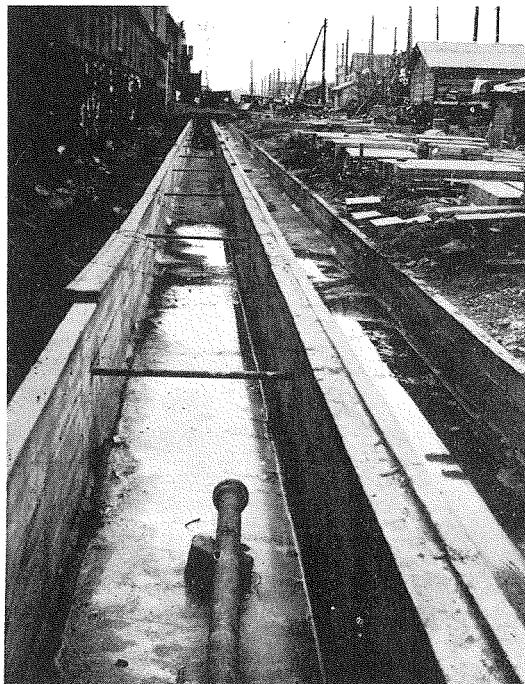
### 幹線第七號の歩道共同溝に就て

#### 付第五號線共同構造圖及寫真

本記事は復興局第一出張所工事課芥川技師及寫真や圖面は工事課長近藤安吉氏、牧野道路課長、遠藤道路課技師の好意に依り寄稿されたものであります。(編者)

帝都復興計畫に依り新設の幹線第7號路線の中、八重洲橋より幹線第1號路線に至る幅員44米街路の兩側歩道内に、主として架空線類を廢して路面掘鑿を絶無とする目的のため、歩道内に豫定してある下水管を除く總ての地下埋設物及架空線等の供給管線類を收容する歩道共同溝が新設された。延長約460間で、總工費47,845圓、工事はすべて請負に依り施工され、180日の工期を以て昭和4年3

(1) 第7號線工事、日本橋横町共同溝。



月竣工したのである。

此の構造は、當初の計畫では1個の溝とする筈だったが、種々の工作物の管理者が違ふので、その維持管理が困難とされた爲、内法高巾各7寸の電信電話溝、高1尺5寸巾2尺7寸の電燈電力溝(之は煉瓦壁を設けて、電燈線、電力線、饋電線用の3區に分けてある)及び水道瓦斯管を收容する内法高3尺5寸巾4尺2寸の溝が設置された。(第3圖参照)何れもコンクリート製函形で、前者は鐵網入工場製ブロック、後者は之を現場打とした。此の上に各鐵網コンクリート製の蓋を敷き並べて、それが直接歩道の鋪裝路面となつてゐる。

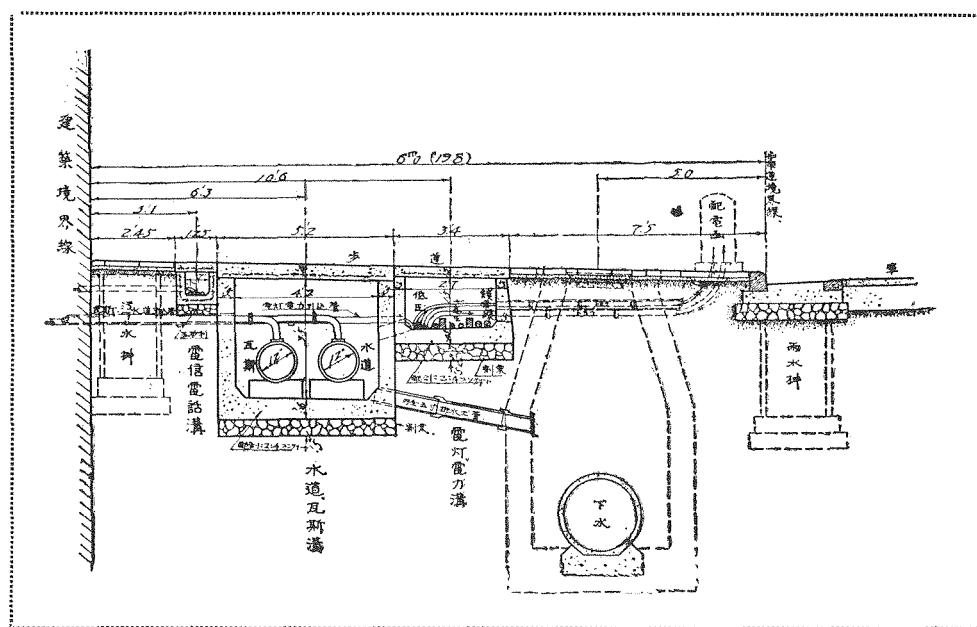
又、電燈電力溝及び水道瓦斯溝には延長約20間毎に溝内瓦斯排氣のため、鑄鐵製格子状の通風孔蓋が備えられた。溝内の水は之を集めて下水人孔に排水し、その取付部分には逆水止瓣が設備されている。

管線類の需要家引込に對しては、豫め内徑 $1\frac{1}{2}$ 吋、及2吋鋼管を布設し、車道にある幹管線類に對しては、適當なる引込孔の設備が施されてある。

本個所は、此の共同溝を利用する事に依つて、彼の雑雜な電柱類が撤去されるので、街路工事完成の暁には眞に近代的市街として清楚なる感を與へる事であらう。

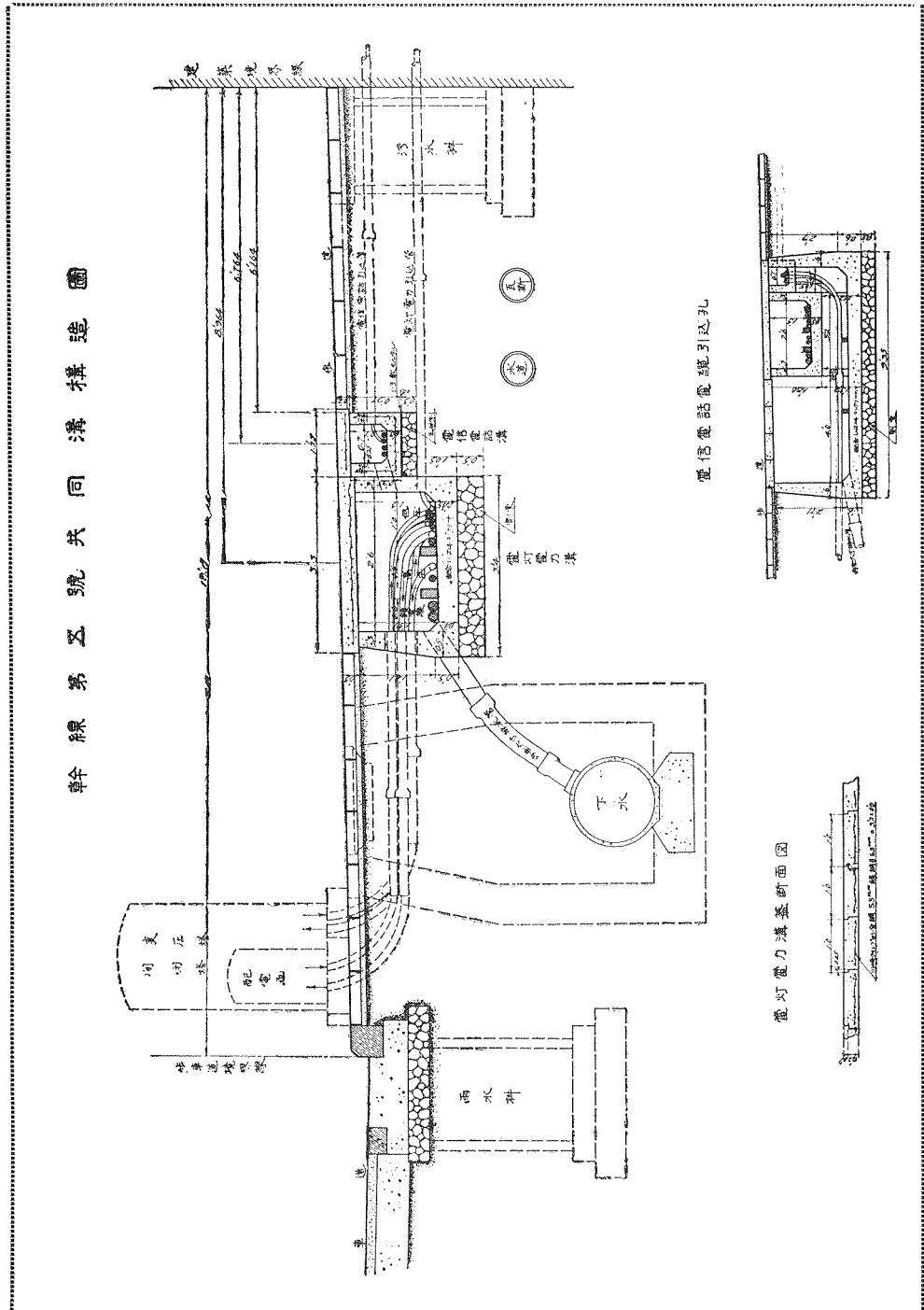


(2) 所謂櫛町線と稱する東京驛裏口の新設大街路。中央の電柱も近く撤去され面目を一新する筈。寫眞は幹線第1號交叉點より東京驛裏口(八重洲橋方面)を見たところ。



(3) 幹線第7號共同溝構造圖。

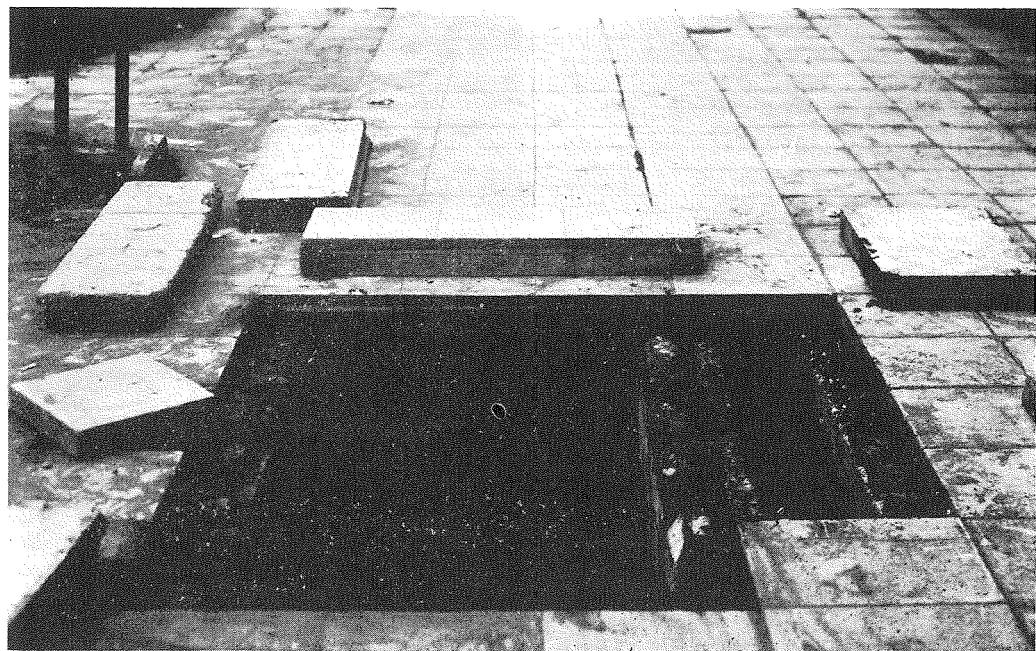
圖書編號：同號五五  
卷數：第五編  
頁數：三  
頁次：三  
頁數：三



(4) 幹線第 5 號共同清構造圖。



(5) 電柱のない街路。所謂濱町線で電線等の架空線は全部地下共同溝内に收められ、郊囲になる一本の電柱もない。樞要なる街路は漸次斯くの如く面目を一新してくる。  
寫眞は日本橋濱町、明治座（右側の建物）附近の景。



(6) 同上、共同溝を示す。